

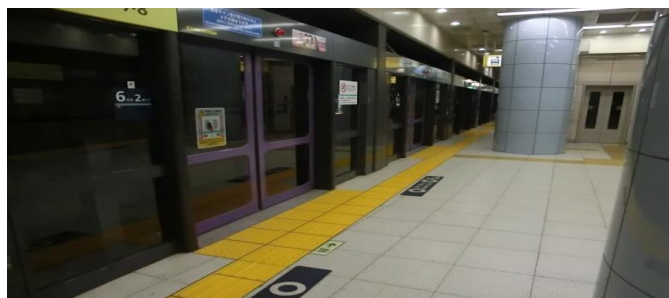
常磐緩行線調査開催！！

運輸車両部会はATOシステムとホームドア設置により今後ワンマン運転化が予想される常磐緩行線の調査を5月30日開催し、当日は部会常任委員5名に加え車両プロから1名、東京地本から3名の計9名が参加しました。

当日は東京地本案内の元、既にワンマン運転埼玉高速鉄道、丸ノ内線を調査後常磐緩行線に入り、我孫子駅までを調査しました。また当日は近年導入されているスマートホームドアの調査も合わせて行いました。

他社のワンマン運転において、取り分け地下鉄では壁式の大きなホームドアが導入されホームドアを乗り越えての線路内の立ち入りは絶対出来なく、JRで進めているホームドアとは全く別物です。また常磐線ではホームがカーブしている駅もあり、取り分け北松戸駅は大きく曲がっており現時点での車掌目線においてもドア扱い大変であると感じました。運転士が車内モニターで確認し、ドア扱いをすることが果たして出来るのか？安全が担保されるのか大きな疑問が残りました。

現在会社は鉄道の安全をAIや安全設備の技術革新を行い今まで人がやっていた安全作業を物へと置き換え人は人ならではのサービスへの道を進んでいますが保安装置はあくまでもヒューマンエラーを防ぐバックアップにしかすぎません。最大の安全は人ならではの経験労働ではないでしょうか？運車職場では現在「現業機関における柔軟な働き方に実現」が提案され安全が脅かされています。私たちはこの施策の導入には断固反対です。運輸車両部会は鉄道の安全が脅かされるこの施策と真正面から向き合い、安全が担保される乗務員職場を創り上げていく為に邁進していきます。



地下鉄で導入しているホームドア

北松戸駅

丸ノ内線は壁式のホームドアを導入している。そしてこんなにも曲線のホームはない！！



運輸車両部会は安全が脅かされる施策と真正面からぶつかり、そこで働く誰もが安全で働きやすい職場を創り上げていく為に邁進していきます！！